

2022年7月

佐伯通信

【熱海だより】



学生時代の自分を撮影した写真を手に

闘牛写真家が時代小説家
佐伯泰英の前身だ。写真家
時代のフィルムが未整理の
ままに残っている。八十を
過ぎて断捨離をするかどう
か迷った末に、「古い写真
を見たいのだが」と娘に相
談を持ち掛けた。私が闘牛
にのめり込んでいたのは70
年代から80年代、写真もフ

古い写真が教えてくれた

佐伯通信

2022年7月(令和4)
第60号
発行
佐伯泰英事務所
担当/文藝春秋
禁・無断転載

イルムに象徴されるように
アナログ時代だ。
スペイン闘牛は全盛期だ
った。文豪ヘミングウェイ
が『午後の死』のモデルと
して取り上げたL・M・ド
ミンギンらが現役でいて多
士済々のスターが活躍して
いた。闘牛場はどこも大入
り満員でむしろ闘牛が見
られた。だが、現在では
動物愛護の観点などから伝
統芸能の闘牛は、見向きも
されなくなった。となると
私が情熱を傾けた闘牛写真
は日の目を見るときがある
とは思えない。
娘も「闘牛の写真はこの

2022年7月

佐伯通信

【近刊予告】

佐伯泰英／近刊のお知らせ

10月
12日

9月
1日

8月
3日

《光文社文庫》
吉原裏同心 38
『一人二役(仮)』

※発売日は予定です。

《文春文庫》
空也十番勝負 8
『名乗らじ』

《文春文庫》
新・酔いどれ小籐次 25
『御留山』
完結

《光文社文庫》
吉原裏同心
[決定版]
順次刊行！

7月13日 ⑦枕絵 ⑧炎上
8月9日 ⑨仮宅 ⑩沽券
9月13日 ⑪異館 ⑫再建
10月12日 ⑬布石 ⑭決着

2022年7月

佐伯通信

【PR】

文藝春秋 文春文庫
「新・酔いどれ小籐次シリーズ」担当
山口由紀子
冴えない風貌の初老の男・赤目小
籐次がただ一人で大名四家と戦った
『御鍵拝借』事件。ここから幕を開
けた大人気シリーズ「酔いどれ小籐
次」のバトンを前任者から受け取っ
たのは二〇一九年夏、ちょうど事件
に繋がる内容の『鍵騒ぎ』からでした。
最初に原稿を拝読するという大役
に緊張したものの、予想の上を行く
展開と新鮮なアイデアに毎回魅了さ
れ、「どうしてこんなに楽しいのだろ
う？」と不思議に思う程でした。留
守にする小籐次親子の身代わりに紙
人形が久慈屋の店先に置かれる(そ
れが人々を喜ばせる)とか、高尾山

の猿たちが小籐次に従ってクライ
マックスシーンになるとか(初読の
衝撃は忘れられません)、そもそも
いつも小籐次の笠には竹トンボが差
してあるわけで……もう最高です！
ただの研ぎ屋爺として静かに暮ら
したいのに、重要な事件が起こると
皆に頼られてしまう小籐次ですが、
それも当然。殿様から長屋の住人ま
で、小籐次は関わった人たちを大事
にし、信頼の絆を周りに築いてき
ました。そのことが、本人も含めて
周囲の人を守り、幸せにしていくな
らば、いつも感動します。
長い物語も、いよいよ8月の『御
留山』で完結します。
小籐次はどんな決着をつけるのか、
成長した息子の駿太郎、そして江戸
の愛しい人々は。ぜひお楽しみに！

近刊・作品情報はここでもチェックできます。
<https://www.saeki-bunko.jp> 佐伯泰英 ウェブサイト 検索

2022年の「佐伯通信」は、佐伯泰英事務所が㈱光文社、㈱文藝春秋の協力のもと発行します。

2022年7月

佐伯通信

【熱海だより】

ままにしておくしかない
わ」と考えを述べた。私が
承知すると、「それよりお
父さんが撮られている写真
のほうで我が一家の生き方
を、時代を反映していて面
白いわ」と言った。
何十年かぶりに見た若い
私は、滑稽なほど必死に、
それでいて楽しんで生きて
いた。時代が日本人を躍ら
せていたように思う。そん
な雰囲気懐かしくもス
ナップ写真にあった。

佐伯通信61号は10月12日刊行予
定の『吉原裏同心38 一人二役
(仮)』(光文社文庫)に入ります。

江戸鎌倉河岸を舞台に、
金座裏の岡っ引き・
政次と幼なじみたちが
活躍する大人気・
青春グラフィティ捕物帖。

全32巻を
毎月1冊ずつ
配信します

2022年10月刊行開始！

読み切り新作 絶賛発売中！

江戸の町を生きる若い男女を生き生きと描いた物語——

『浮世小路の姉妹』

年に一度の至福「青春オムニバス」
既刊：『新酒番船』『出紋と花かんざし』

出版社からのお知らせ 光文社文庫